

●東京研修 感想●

ディレクトフォースについて

初日のディレクトフォースは、たくさんの方を学ぶことができました。私たちは 3 人の方にお話をさせていただきました。まずはじめに、株式会社ソモス &カンパニーの相馬円香さんにお話を伺いました。相馬さんは、日産、楽天の勤務を経てソモス&カンパニーを立ち上げたそうです。会社を立ちあげる時、初めはひとりでできることも、会社が大きくなるにつれてたくさんの方たちの力が必要となってきます。ひとつの会社を運営するにしても、企画を作る人、デザイナーさんなど、それぞれ違う能力を持った人が集まりアイデアを出し合います。そのような場ではそれぞれの意見・価値観を認め合うことが出来なければなりません。また、相馬さんによると、その「違い」というのは、自分の意思をしっかり持っているからこそ感じるのだそうです。まずは自分の意思を貫き通すことが必要だとおっしゃっていました。相馬さんのような、さまざまな人とコミュニケーションをとり、人を動かしていく仕事は、目立ってなんぼの仕事であるとおっしゃっていました。また、会社を作っていく行動力は、中学・高校時代に培われたのだそうです。この時期の経験が今の仕事におおいに役立っているそうです。

次に、富士フイルム欧州本社の事業長として働く川崎有治さんにお話をさせていただきました。現場で働く外国人との文化の違いで困ったことを聞いてみました。欧州は 54 カ国、人口 8.2 億人ですが、国ごとに歴史、価値観、ルールなどがちがいます。例えば、欧州では、残業はしない、休みは夏 2 週間、クリスマスにも 2 週間しっかりと取るそうです。「なんでこんなに忙しいのにすぐ帰るのか」と思っても、それが普通で、それで社会が回っているのだそうです。日本とは大きな違いがあるんだなと驚きました。また、そういった違いをものともせず、従業員をまとめ、会社を動かすことが出来るのはすごいことだなと思いました。

最後に、笹川平和財団で東南アジアの研究をされている林茉莉子さんにお話を伺いました。私は、東南アジアの移民難民問題や、紛争などの問題に興味があったので、問題を解決するためにすべきことを聞いてみました。林さんは、これらの問題を考えるにあたり、「自分たちの立場から考えてやるべきこと」が優先順位をつける基準になる、とおっしゃっていました。笹川平和財団は民間の企業であり、国が介入出来ないところにも入ることが可能です。それを利用して、自分たちに求められる仕事を考えていくとのことでした。みなさん国際的な仕事をされているという共通点があり、ひとりひとりに外国人とのコミュニケーションのなかで自分の考えを伝えるために心がけていることをお聞きしました。すると、はっきりと考えていることを言うべきである、そのために英語力や、コミュニケーション能力の向上が欠かせないという答えが 3 人の方々から返ってきました。私は、将

来国際的な仕事をしてみたいと考えているので、とても参考になりました。また、高校時代に培ったことは無駄にならないということもおっしゃっていました。3人の方々のお話を聞いて、まずは今すべきことを全力でするのが大切だということが分かりました。

企業訪問について

私たちは厚生労働省にお邪魔しました。時間が少ないということで、あまり詳しく中を見ることが出来なかったのですが、お話を伺う中で、厚生労働省が日本にどのようなかたちで貢献しているのか、これからの課題はどういったことなのかなどを知ることが出来ました。普段は絶対に行くことが出来ないのも、とても貴重な体験となりました。厚生労働省では、主に医療のお話を伺いました。外国で認可された新薬や治療法の日本での承認が遅いことが多々あります。そのことについて理由を教えてくださいました。まず、新薬は、それが人の体に合うかどうか実際に試し、データを集めることから始まるそうです。これを治験といいます。日本は以前大きな薬害を経験しており、海外に比べ安全性の確保に厳重な注意を払っているそうです。そのような事があり、治験もより安全性を重視したものになっていて、実験の期間が長くなる、ということでした。しかし、今後はそれが変わる可能性もある、とおっしゃっていました。また、最近注目されている人工知能やAIが、今後医療に貢献するのかという疑問にも教えてくださいました。人工知能やAIは、人の命がかかる手術などには利用しないそうです。やはり、手術などの技術においては熟練の医師にはかなわないそうです。しかし、介護の面では、これからどんどん普及していくだろうということでした。現在では、主に高齢者、認知症患者を対象としたロボットなどが活躍しています。少子高齢化が進む中、介護の負担が少しでも減ることは素晴らしい事だと思いました。これからもっともっと介護の進歩もめざましくなるのだと期待しています。私は、最初は厚生労働省のことをあまり知らなかったのですが、この訪問でわかったことがたくさんありました。日本で私たちがいま安全に暮らせているのは、厚生労働省をはじめさまざまな仕事が成り立っているからなんだと改めて実感しました。また、部活と社会はよく似ているというお話をさせていただきました。部活は、教室でいつも仲良くしている仲間とは違い、もしかしたら嫌いだな、苦手だなと思う人もいるかもしれません。そういう環境が社会と似ていて、その中で協力しあっていくことは、将来社会に出た時にとても役立つとのことでした。特に高校時代は人間関係が大事で、経験をたくさん積んでいく時期だそうです。私は今部活をしていますが、これからたくさん試練が待ち受けていると思います。でも、それをチームの仲間と協力して乗り越えることが人生の糧になると思います。ここで教えてもらったことを心に留めて、これからの生活に活かしていきたいです。

OBOG 座談会について

私たちは二高を卒業し東京大学に進学された OBOG の方々と座談会をさせていただきました。東大のいいところや高校時代のお話など、さまざまなことを教えてくださいました。

内容の濃い時間が過ごせてとてもためになりました。こういった機会はないと思うので学んだことをしっかりと心に刻みたいです。

東京大学見学について

二日目は東京大学で東大生の方々に色々なことを教えていただきました。東大生のプレゼンテーションや前日の OBOG 座談会を聞いて印象に残ったのは、先輩方はそれぞれ明確な目標を持って進路を決めていたことでした。私は今は進路はまだはっきりとは決まっていませんが、進路志望理由を聞かれた時に、胸をはって自分の考えを言えるようになりたいなと強く思いました。自分の意思を強く持っている東大生の先輩方はとてもかっこよくて、私の目標となりました。また、法学部の模擬講義を受けたり、東大生と個別相談会をさせていただいたり、とても貴重な経験ができました。私はこの見学会に行く前と行った後で東大のイメージが大きく変わりました。行く前までは、東大にいる人は天才か変人ばかりだと思っていました。しかし、お話を聞いたりしていく中で、努力をたくさんしてきたことなどイメージとは違うことがわかり、親近感がわきました。私が質問したことにも親切に答えてくださったりアドバイスをしてくださったりしてとても嬉しかったです。

最後に、この東京研修を通して学んだことをこれからの人生の中で大事にしていきたいです。そして、今しかない高校生活で自分の目標を明確に持ち、そのために努力することができる人になりたいです。